

平成30年度 みんなで支える森林づくり木曾地域会議

(第1回) 実施概要

1 日 時 平成30年7月19日(木) 13時30分～16時00分

場所 現地及び木曾合同庁舎 401・402号会議室

2 出席者

【委員】

神村光雄委員(座長)、大屋誠委員、大家八代美委員、清水紘一委員、長瀬恵敏委員、古畑正美委員

【木曾地域振興局】

増田局長、小田切林務課長、稲村課長補佐兼林務係長、中宿課長補佐兼普及林産係長、和合鳥獣対策専門員、中村副参事兼課長補佐兼治山林道係長(会議のみ出席)、青木主査(会議のみ出席)

【報道】

なし

【傍聴】

なし

3 実施内容

(1) 現地視察 13時30分～14時10分

木曾郡木曾町新開 梨の木団地

平成29年度みんなで支える里山整備事業実施箇所を視察し、事務局から事業概要を説明しました。

公道に隣接する森林について、当該事業を活用し間伐を行ったもの。



視察状況

(2) 地域会議 14時20分～16時

木曾合同庁舎4階 401・402号会議室

会議の内容は、以下のとおり



会議の様子

4 地域会議の内容

(1) 開会

(2) あいさつ

増田木曾地域振興局長があいさつ

(3) 会議事項

- ① 前年度まで（第2期）の度森林づくり県民税活用事業の実績について
- ② 平成30年度森林づくり県民税活用事業の内容について

事務局から、「前年度まで（第2期）の度森林づくり県民税活用事業の実績について」資料1により、「平成30年度森林づくり県民税活用事業の内容について」資料2・3により説明し、ご質問やご意見を伺いました。

【委員の皆さまからの主な意見等】

〔2期実績関係〕

- 実績の里山と人との絆づくりを進める取組みの促進は、町村に偏りがあって実施している団体が限られ、事業の情報が広く県民に伝わっていないのではないかと。
- 森林税の事業のPRが不足しているのではないかと。
- 実際に森林整備した箇所を見える化してPRをしていくことが納税者に対して効果的ではないかと。

〔3期取組見込み関係〕

- 第3期の事業を見ると、幅広く地域住民に密着してきた内容で非常に良くなっている。
- 森林環境譲与税（仮称）と森林税の事業が重複するようにも思われ、譲与税の用途がある程度示されたら調整が必要ではないかと。（森林環境譲与税が国有林を借用している森林公園等の整備に活用できるのか知りたい。）
- 現場を整備した事業者、森林所有者のモチベーション向上のため、功績や功労ではなく、よく出来ている森林整備の現場を表彰する制度があるとよいと思う。
- 鳥獣対策の緩衝帯整備は優先順位の高い順に整備を進めないと、身の危険を感じる状況になってきている。様々な事業で順次整備を進めてほしい。
- 緩衝帯整備を初回のみではなく、継続的に実施できる制度に見直す時代に来ているのかもしれない。
- 森林整備を進める事業に取り組むためには、境界の明確化が大きな課題であるが、わかる人がいるうちに取り組む必要がある。

(4) 閉会